

多職種連携	多職種連携実践演習
-------	-----------

[演習] 第4学年 前期 自由選択 2単位

【概要】

多職種連携とは、多様なニーズをもつ対象者に対して、質の高いケアを創造するために、専門職を含む対象者に関わる全ての人々が、対象者・家族とともに共有した目標に向けて働くことである。保健・医療・福祉の現場において、対象者・家族のQOL(Quality of Life:生命・生活・人生の質)の向上のために対象者・家族とともに多職種がケアや社会的課題の解決が目指される。現代の複雑で多様化した保健・医療・福祉の課題が生じる社会において、一人の専門職がその知識や能力を駆使して、単独で課題を効率的に解決するという事は困難である。互いに異なる知識・能力をもつ複数の専門職が協働することが必要とされる。

本演習は、保健・医療・福祉を中心とする多様な分野と連携・協調して行動し、社会で活躍できる専門職になるための能力を養うために、多職種連携の実際の場面を取り入れている。具体的には、地域包括ケアにおける専門職の活動を、多職種連携による対象者理解の観点に注目しながら同行訪問・オンラインで見学する。対象者理解を進めるために、専門職、対象者・家族に対して家庭訪問も交えて聴き取りを行う。多職種が連携して対象者の全体像をICFモデルを用いてとらえる。得られた情報をもとに自分の専門とは異なる学科の学生とともにディスカッションを行い、多職種連携に関する考えをまとめる。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による